

履 歴 書			
フリガナ氏名	フクオカ タロウ 福岡 太郎	現職名	〇〇大学 〇〇教育センター 外国語講師
生年月日(年齢)	昭和 年 月 日 (満 歳) 記入時の満年齢を括弧付きで記載。		
現住所	〒810-0023 福岡市...		TEL (092) 111-1111 E-mail
	電話番号、メールアドレスも記載。		
学 歴			学歴と職歴を合わせて空白となる期間がないように記載してください。
年 月	事 項		
昭和 62 年 3 月 昭和 62 年 9 月 昭和 63 年 4 月 平成 4 年 3 月 平成 7 年 4 月 平成 9 年 3 月 和暦で明記(左揃え)。	〇〇県立七隈高等学校卒業 ロンドン大学人文学部英語学科留学 (昭和 63 年 3 月 31 日まで) 福岡大学文学部英語学科入学 福岡大学文学部英語学科卒業 学士(文学)「同上」とは書かず、繰り返し明記。 福岡大学大学院文学研究科英語学英米文学専攻修士課程入学 福岡大学大学院文学研究科英語学英米文学専攻修士課程修了 修士(文学) 高校卒業から記載してください。大学以降では入学と卒業(修了)は行を改め、卒業(修了)行には()付きで学位名も記載してください。大学は、学部・学科名(学科名がない場合は、課程名又は専攻名)まで、大学院は研究科名・課程名、専攻名までを記載。学生時に留学した場合は学歴として記載してください。		
学 位 ・ 免 許 等			
年 月	事 項		
平成 2 年 6 月 平成 4 年 3 月 平成 9 年 3 月 取得年・月を和暦で明記(左揃え)。	高等学校教諭二級普通免許状 外国語(英語)取得(福岡県教育委員会 平2 高二普第 100 号) 授与機関と登録番号を括弧付けで明記してください。 学士(文学)の学位取得(福岡大学) ←授与機関を明記。 ↓登録番号があれば番号も明記。 修士(文学)の学位取得(福岡大学大学院 福岡大学 第 100 号) 学位名を記載し、学位認定大学名・学位記号を学位名の後に()付きで記載してください。教職免許は、免許認定都道府県名・免許記号を免許名の後に()付きで記載してください。ディグリーミルによる学位は記載不可。海外の大学で取得した学位については英語で記載してください。		
職 歴		自営業、兵役等についても省略せず記載ください。	
年 月 日	事 項		
昭和 62 年 4 月 1 日 平成 3 年 4 月 1 日 平成 4 年 4 月 1 日 平成 5 年 4 月 1 日 平成 9 年 4 月 1 日 就任年・月・日を和暦で明記(左揃え)。	留学準備(昭和 62 年 8 月 31 日まで) ロンドン大学大学院文学研究科英文学専攻研究生(平成 4 年 3 月 31 日まで) 自宅研修(又は自宅研究)(平成 5 年 3 月 31 日まで) 〇〇大学〇〇学部非常勤講師(「英語 I」等担当)(平成 7 年 3 月 31 日まで) 〇〇大学〇〇教育センター外国語講師(「共通教育英語」等担当)(現在に至る) 大学・学部・職位あるいは大学・大学院・研究科・職位、企業名・部局・職名を記入してください。各職の退職時の年月日をそれぞれの職名の後に()付きで(〇年〇月〇日まで)と記入。現職は(現在に至る)と記入してください。なお、担当科目・年月日を括弧付きで記載してください。担当科目が複数ある場合、代表の科目名を記載し(「〇〇」等担当)としてください。所属学部や所属組織(センター等)があれば書いてください。		
学会及び社会における活動等			
年 月	事 項		
平成 12 年 6 月 1 日 和暦で明記(左揃え)。	全国語学教育学会会員(現在に至る) ←いつまでか年月日を括弧付きで明記。 所属学会、所属学会での役職などを記載してください。退会・退任している場合はその後に()付きで退会・退任年を(〇年〇月まで)と記載し、現在も所属している場合は(現在に至る)と記載してください。		
賞 罰			
年 月	事 項		
和暦で明記(左揃え)。	なし 国際機関や国、地方公共団体などの機関や所属学会等からの賞などを記載してください。		
上記のとおり相違ありません。			
令和〇年 〇月〇日 ↑記入日を記載すること。		氏 名 印 印鑑必要。	

教 育 業 績 書

記入日を記載すること。→ 令和〇〇年 〇〇月 〇〇日

数字はすべて「半角」で記入。

氏 名

印

教育上の能力に関する事項	年 月	概 要
1 教育方法の実践例 (1) ペア・ワークとグループ・ワーク どのように授業を行なっているか、その特色を記載してください。ここに挙げた以外に、小テストの実施、ミニッツ・ペーパー、マルチメディア・インターネットの活用などが考えられると思いますが、自分が授業で行っている工夫なども記載可能です。 (2) ジャーナル 今までに実施した教育活動のうち、顕著な教育効果のあった取り組みや独創的な取り組み等について、この欄に項目名を記載し、概要欄にその内容を簡潔に記載する。	平成元年4月 (平成4年3月まで) ↑ 年月を和暦で記載。括弧でいつまでかを明記。年月は古い順に記載してください。 平成7年4月 (現在に至る)	なかなか積極的にコミュニケーションしようとしにくい日本人学生に口を開かせるためにまず大事なことは環境づくりである。学生同士で助け合って問題をクリアさせることで安心して取り組み、間違えることを恐れない環境をつくる。学生たちにペア、あるいはグループを組ませ、一つの課題（会話練習、聴き取り、スピーチ、ディベート、ロールプレイなど）を与え、解決するように持ってゆく。その上で、指導を行い、レベルアップを図ってゆく。 授業が終了すると、次の授業までにその回の授業を振り返ってジャーナル（日記、日誌）を書くよう指導している。このことで学生は授業で学んだことを反芻し、しっかりと身につけることができる。また、これは同時に自分の授業へのフィードバックにもなり、自分の授業の反省をこちらもすることになる。
2 作成した教科書、教材 Listen to Me (Level 1) Listen to Me Too (Level 2) Listen to Me (Level 3) (作成した教科書や教材について、この欄に項目名を記入し、概要欄にその内容を簡潔に記載する。)	平成15年4月 (現在に至る)	福岡大学で必修科目として英語を履修する学部生向けのテキストである。Listen to Me (Level 1)はベーシック・イングリッシュ・クラス、Listen to Me Too (Level 2)はインタミディエイト・イングリッシュ、Listen to Me (Level 3)はアドバンスト・イングリッシュに対応している。
3 当該教員の教育上の能力に関する大学の評価 特になし		授業評価アンケート等をもとに大学や所属部署から評価・表彰を受けたことを記入する場合は、アンケートを行った大学名、アンケートの名称、アンケートの各設問内容及び点数を記入してください。
4 実務家教員についての特記事項 特になし		
5 その他 特になし 研修会での講演等については、5. その他に記載してください。		

職 務 実 績 書 記入日を記載すること。→ 令和 年 月 日 数字はすべて「半角」で記入。氏 名 印		
職務上の実績に関する事項	年 月	概 要
1 資格, 免許 1. 実用英語技能検定 1 級 2. TOEIC Listening & Reading Test 970 点 担当する教育の内容に関するものなど、特に審査に関連すると思われる事項について、この欄に項目名を記載し、概要欄にその内容を簡潔に記載する。ない場合は、「特になし」と記載する。	平成 25 年 7 月 平成 30 年 1 月 ↑ 年月は和暦で記載すること。	公益財団法人 日本英語検定協会が主催する実用英語技能検定において 1 級を取得した。 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会が主催する TOEIC Listening & Reading Test において 970 点を取得した。
2 特許等 特になし 担当する教育内容等に関連した事項について、この欄に項目名を記入し、概要欄にその内容を簡潔に記載する。ない場合は、「特になし」と記載する。		
3 実務家教員についての特記事項 特になし 履歴書の職歴欄に記載した共通教育外国語科目に対応した事項を参考に、①従事した期間、②職務の内容（どのような職務について、どのような役割を果たしたか）、③成果、結果を簡潔に記載する。共通教育外国語科目に関連する職歴（除く、教育機関）ではない場合は、「特になし」と記載する。		
4 その他 特になし 上記の 3 つの項目以外で特記すべきものがあれば、この欄に項目名を記入し、概要欄にその内容を簡潔に記載する。ない場合は、「特になし」と記載する。また科学研究費補助金等、応募者が所属する機関外から得た研究費は、この欄に記載する。		〔記載例〕 事項：研究費種目、課題番号、代表・分担の別 年月：研究期間 概要：研究組織（複数名によるプロジェクトの場合のみ）

研究業績書

記入日を記載すること。→ 令和 年 月 日

数字はすべて「半角」で記入。

氏 名 印

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要（共著者名等）
著書 1. Error Analysis 中央揃えで記載 ISBN が付されたものを記載。 語学の授業で用いる語学学習用テキストは「教育業績書」の「2. 作成した教科書、教材」の欄に記載する。	単著	平成 14 年 12 月	Oxford University Press	総頁数 123 頁 概要とあるが、内容のまとめではなく、ページ数や共著の場合の共同執筆者を書く。
2. English Education	共著	平成 14 年 12 月	Longman 共著の場合は自分の担当箇所を説明する。共同執筆者を書き、自分の名前に下線を引く。	総頁数 123 頁中、第 3 章 (20 頁) を担当 福大一郎、 <u>福大太郎</u> 、福大二郎 他
学術論文 1. Demonstratives in English ISSN が付された雑誌（オンラインも含む）に掲載されたものおよび博士論文を記載。 2. Metalinguistic Knowledge 3. Cleft Sentences 博士学位論文も記載可能。 修士論文は記載不可	単著 単著 共著	平成 15 年 6 月 平成 20 年 9 月 平成 22 年 12 月 (印刷中) まだ出ていない場合は印刷中や受理済みと括弧付きで記載し、それを証明できるものを同封すること。	English Linguistics 第 3 巻 査読の有無は査読有りの場合だけ下線を引く。巻数や号数も明記。 国内誌（国内学会の雑誌）であればイタリックでの記載不要。 Applied Linguistics, Volume 29 国際誌で査読付きのため、雑誌名がイタリックで下線あり。 ○○大学紀要第 35 巻第 1 号	総頁数 23 頁 総頁数 25 頁 総頁数 56 頁中、第 1 章 (20 頁) を担当 福大一郎、 <u>福大太郎</u> 、福大二郎 他 共著の場合は、共同執筆者全員の氏名を書き、自分の名前に下線を引く。また、自分のページを記載
その他 学会発表 1. Cleft Sentences 2. Teaching of the Pronunciation 総説 1. Motivation and Attitude その他として、修士論文、学会発表、訳書（翻訳・共訳）・総説・研究ノート、研修資料、報告書等を記載する。	単独 共同 単著	平成 16 年 6 月 平成 17 年 3 月 平成 17 年 6 月	第○回日本英文学会全国大会（○○大学） 学会名を先に記載 第○回日本英文学会全国大会（○○大学） 学会の開催回を書き、括弧 () で開催場所を記載。 ○○英文学 第 50 号	福大一郎、 <u>福大太郎</u> 、福大二郎 他 共同発表の場合は、共同発表者全員の氏名を書き、自分の名前に下線を引く。 総頁数 27 頁

「教育業績書」の記入例

1 教育方法の実践例

今までに実施した教育活動のうち、顕著な教育効果のあった取り組みや独創的な取り組みについて、左の欄に項目名を付けて記入し、右の概要欄にその内容を簡潔に記入する。マルチメディア機器を活用した授業や学生の授業外における学習促進のための取り組み、講義内容のweb公開等も対象になる。

2 作成した教科書、教材

作成した教科書や教材、講義で教科書として使用している著書、教材等について、左の欄に項目名を付けて記入し、右の概要欄にその内容を簡潔に記入する。

研究業績書に記載した著書、学術論文を記入する場合は、項目名の後に(再掲)と記入する。

3 当該教員の教育上の能力に関する大学等の評価

- (1) 大学や外部機関が教育能力評価を行っている場合には、評価者(評価組織)名を左の欄に記入し、評価内容を右の概要欄に記入する。
- (2) 学生による授業評価や教員同士の相互評価等を行っている場合は、左の欄にそれぞれ「学生授業評価」、「教員相互評価」等と記入し、その概要を右の欄に記入する。ただし、本学の学生授業アンケートの結果は記入できない。
- (3) 上記以外で、学長、学部長、学内諸機関等が行った評価(客観性を持ったものについて記載)や採用決定の際等における教育上の能力に関する評価等について評価者(評価組織)名を左の欄に記入し、評価内容を右の概要欄に記入する。

4 実務家教員についての特記事項

下記の事項等を参考に、左の欄に項目名を付けて記入し、右の概要欄にその内容を簡潔に記入する。

- ・ 大学から受け入れた実習生に指導歴(看護・福祉実習、企業実習等)
- ・ 企業内教育、大学公開講座、社会教育講座の講師としての講義等の概要
- ・ その他、所属機関や関係機関等において行った講義、講習、職員・関係者等に対する指導、海外等における留学、調査研究経験等

上記の他広く記載すること。

5 その他

教育業績に対する受賞歴、教育改善活動団体での活動等について、左の欄に項目名を付けて記入し、右の概要欄にその内容を簡潔に記入する。

※上記にとらわれず、積極的に記入すること。

「職務実績書」の記入例

担当予定科目の内容に関するものを主として記入すること。

1 資格、免許

資格について、担当する教育の内容に関するものなど、特に審査に関連すると思われるものについて記載すること。

2 特許等

担当する教育内容等に関連した事項について記載すること。

3 実務家教員についての特記事項

実務経験の記載方法については、履歴書の職歴欄に記載した事項を中心に、担当する授業科目に対応した下記の事項等を参考に記載すること。

①従事した期間

②職務の内容（どのような職務について、どのような役割を果たしたか）

③成果、結果

○企業、官公庁等の研究者の場合

- ・ 開発した新製品・製法、作物等の新品種などの概要
- ・ 大学との共同研究による研究実績がある場合、その概要、成果、当該研究者の役割

○その他、企業・団体等関係者

- ・ 国際援助・開発、先端技術、国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績

○情報技術者関係の場合

- ・ コンピュータに係る職務歴（職務上のコンピュータ活用法、ソフト・システム開発歴）

○マスコミ関係者の場合

- ・ 執筆した記事の概要
- ・ 作成した番組の概要

○医師や看護師等医療技術者の場合

- ・ 症例研究会での発表等の活動

○福祉その他社会的活動の関係者の場合

- ・ 参加した活動や団体の名称、活動内容・期間、本人の当該活動における地位

○スポーツ等実技関係者の場合

- ・ 指導者としての経歴・実績・資格

○芸術関係者の場合

- ・ 作品の概要

○博物館、美術館等関係者の場合

- ・ 担当した展覧会の概要
- ・ 執筆・監修した展覧会図録の概要

○その他全般を通じて

4 その他

1 から 3 に該当するもの以外の事項について幅広く記載すること。